



ウトナイ湖通信

No.184

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

「夏休みこどもスペシャル」を開催しました！

7月27日(土)、夏休みに入ったばかりの子どもたち(小学3~6年生)を対象に、「夏休みこどもスペシャル～野生動物を守る！～ 獣医さんと環境省のお仕事体験～」を開催し、市内外から15名の小学生に参加いただきました。前半は当センターの獣医師から、野生動物を守るために様々な活動があることや当センターの役割等のレクチャーを受け、普段は非公開の救護施設を見学。その後は、救護体験として、傷病鳥(トラフズク・オオコノハズク・チゴハヤブサ)の保定や体重測定等を行ないました。

後半は環境省のアクティブ・レンジャーから、環境省の仕事について話を聞いた後、自然観察路の巡視(パトロール)へ出かけ、自然情報収集や観察路に問題がないかの点検等を行いました。2時間半という長いプログラムでしたが、全員の子どもたちが積極的な姿勢でしっかり活動することができました！



トラフズクの救護体験



自然観察路をパトロール中



全員でパチリ

夏の自然を歩きながら楽しむ

ウトナイ湖の夏の自然に親しみ、すんでいる生きものを知ってもらおうと、7月27日~8月18日の各週末に「ウォークラリー」を開催しました。このイベントは毎年、夏休み期間と、4~5月の大型連休に行なっています。

約500メートルの一周できる自然観察路に、8つの問題(特に植物に関するもの)を設置。参加者は受付後、コース上の各ポイントで五感を使いながら、次々に解いていきます。今回は新たな試みとして、道具を使って解く問題を用意しました。その道具とは虫メガネ。植物のタネをよく観察し、形の特徴をつかんでもらうものです。最後にゴールで答え合わせをし、参加記念として、ウォークラリー限定の「オリジナルしおり」をお渡ししました。

今年は計9日間で、参加者は58組・152名。雨や暑い日が多く、昨年と比べ、かなり少ない人数となりました。子どもたちの笑顔にあまり出会えなかったのが残念です。



ボランティアさんから進め方を聞いて、さあ、出発！



五感を使いながら、8個の問題に挑戦



ゴールで答え合わせ。参加記念のしおりを差し上げました

【自然観察路情報】

2019年8月8日(木) 9:50~12:15

観察された生きもの

《野鳥》

オオハクチョウ(越夏個体)、カイツブリ、アオサギ、オジロワシ、アカゲラ
ハシブトガラ、シジュウカラ、ウグイス、センダイムシクイ、メジロ、クロツグミ



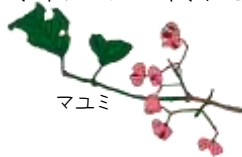
クロツグミ

《植物》

ナガボノシロワレモコウ、ホザキシモツケ、キンミズヒキ、ガガイモ、ノコギリソウ、カセンソウ
ヒヨドリバナ、ハンゴンソウ、ミゾソバ、オトギリソウ、ヤブハギ、エゾミノハギ、ゲンノショウコ
サワギキョウ、クサレダマ、トモエソウ、ツリフネソウ、キツリフネ、イヌゴマ、シロネ、カタバミ
ノブドウ(以上、花)、カラコギカエデ、キハダ、ミズキ、マユミ、ズミ、ハンノキ、ツルウメモドキ
チョウセンゴミシ、ヤマニガナ、キンミズヒキ、トモエソウ、ヤブハギ、オトギリソウ(以上、実やタネ)

《キノコ》

ハンノキイグチ



マユミ



ツルウメモドキ

《昆虫・その他》

フタスジチョウ、ヒラタシデムシ、オオホシオナガバチ、キマワリ、ハネナガキリギリス
ヒョウモンチョウの仲間、イシサワオニグモ、キバナオニグモ



ハネナガキリギリス

【水鳥カウント調査結果】

2019年8月8日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類、水辺の鳥 * ()内は個体数

コブハクチョウ(4)、オオハクチョウ(2/越夏個体)、カイツブリ(6)
カワウ(1)、アオサギ(2)、オジロワシ(1)、カワセミ(2)



アオサギ



カワセミ



9月の自然予報

すでに顔を見せているカモ類に続き、中旬にはガンの仲間が渡来するでしょう。昨年の初認日はヒシクイが11日、マガンは20日でした。年によっては、下旬にコハクチョウも確認されます。

ノビタキやアカハラなどの夏鳥は越冬地に向けて南下を始めています。そろそろ姿が見られなくなるでしょう。

8月は渡り途中のソリハシシギが確認されました。水位が下がって泥地が出現すれば、他のシギ類も期待できるでしょう。

岸辺の観察路では、赤紫色のエゾミノハギや黄色のヤナギタンポポに代わり、エゾリンドウの青紫色の花が目立つようになるでしょう。

実りの季節。マユミには昨年よりも多くの実がついています。他にもチョウセンゴミシなど赤く色づいた実が見られるようになるでしょう。



冬鳥として渡って来るハジロカイツブリ



マユミの実。外皮が赤くなりつつある



ノシメトンボ。翅(はね)の先端部が茶色



アカトンボの仲間が見られるようになるでしょう。アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボなどを探してみましょう。秋の花にはクジヤクチョウなども見られます。



ハネナガキリギリスの「チョン、ギ〜」、カンタン(コオロギの仲間)の「ルルル・・・」という声がよく聞かれるでしょう。

【 サワギキョウ 】

夏の終わりから秋にかけて、湖岸の自然観察路で見られ、高さは1メートルほどになります。青紫色の花の一つを見ると、キキョウの仲間とは思えない、特徴的な変わった形をしています。



*ウトナイ湖に関するクイズ

毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。あなたもウトナイ博士になれるのかも。

Q. ウトナイ湖周辺で秋に見られるキクの仲間。外来植物でないのは、どれでしょう。



(あ) オオアワダチソウ



(い) ハンゴンソウ



(う) ユウゼンギク

答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

キビタキ

2019年 6月 18日 くもり

苫小牧市内の道路にうずくまっていたところを保護

6月18日

16:00 市民が発見・保護し、市役所へ通報。市職員が個体を受け取り、当センターへ搬送。

16:30 初診では、明らかな外傷は認められなかったが、体調不良の際にみられる^{ほうろ}膨羽状態（羽を膨らますこと）だったため、直ちに保温・安静状態を施した。

6月26日

16:00 全身の状態が回復し、動きも良好。餌（ミルワーム）の自発採餌も認め、リリースに至る。

体重 12g

ほうろ
搬入直後の膨羽状態



身体検査中
異常は認めなかった

キビタキ（スズメ目ヒタキ科）

体長14cm。夏鳥として全道に渡来し、平地から低山の広葉樹林や針広混交林などで暮らしています。枝先から森林内の空間に飛び出て、飛翔中の昆虫類を捕え、また元の枝に戻る「フライング・キャッチ」をよく行ないます。

イベント情報

☆ ウトナイ湖へ渡って来るのはいつ？ オオハクチョウの渡来日予想クイズ ☆

例年 10 月にロシアから渡ってくるオオハクチョウ。2019 年秋の「渡来日」を当ててください！

野生鳥獣保護センター内に用意した応募用紙に必要事項を記入の上、9 月 1 日(日)～29 日(日)に、同センター内の応募箱へお入れください。「渡来日」を見事当てた 1 名様には、野鳥カレンダーなどの「ズバリ賞」を用意しています。(正解者多数の場合は抽選)。

なお、「渡来日」は「渡って来たオオハクチョウをレンジャーが確認した日」とします。応募期間終了後、レンジャーが渡来を確認したら、すみやかに当選者を決定し、電話でお知らせします。

☆ このクイズは、10 月 12 日(土)～10 月 14 日(月・祝)に野生鳥獣保護センターで開催する「ウトナイ湖・渡り鳥フェスティバル」のイベントです。

☆ ウトナイ湖には、ケガをして繁殖地に帰れず、夏の間も見られるオオハクチョウが 10 羽ほどいます。混同しないよう、ご注意ください。

☆ ヒント:過去の渡来日は以下のとおりです。参考にしてください。



	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
渡来日	10/15	10/10	10/6	10/15	10/8	10/8	10/15	10/6	10/12	10/12	10/12

第 3 回 野生動物に学ぶ救護セミナー ～ウトナイ湖を飾る猛禽類たち チュウヒ・オジロワシ・トビ～

日時: 9 月 21 日(土) 10:00～12:00

対象: 高校生以上

定員: 申込み先着 30 名 (9/1～9/20 受付)

講師: 道央鳥類調査グループ 先崎 啓究さん



市民ギャラリー

「アクティブ・レンジャー写真展 ～愛おしき北の生きものたち～」

日時: 9 月 3 日(火)～9 月 29 日(日)

展示: 環境省

アクティブ・レンジャーとは、自然保護官の補佐役として、国立公園等のパトロール、調査、利用者指導、自然解説などの業務を担う環境省の職員です。

◆ウトナイ湖◆

周囲約 9km、面積約 275ha、平均水深約 0.6m の淡水湖です。

鳥類はこれまでに約 270 種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。

また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間: 午前 9 時～午後 5 時 / 休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

